

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472900719
法人名	有限会社 ぱすてる
事業所名	どんぐり庵
訪問調査日	平成19年11月27日
評価確定日	平成20年1月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472900719号
法人名	有限会社 ぱすてる
事業所名	どんぐり庵
所在地	〒243-0213 神奈川県厚木市飯山2237-9 (電話) 046-243-1030

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(平成19年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	21	常勤	6人	非常勤	15人	常勤換算	15.8人

(2) 建物概要

建物構造	(準防火地域木造2階建)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 184,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	320 円
	夕食	450 円	おやつ	70 円
	または1日当たり 1,040 円			

(4) 利用者の概要 (11月12日 現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人コスモス 米澤外科内科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは厚木市の北西部に位置し、閑静な住宅地の中にあります。外観は、落ち着いた茶色系の外装であり、近隣の住宅と違和感はありません。近くには、竹林なども残っていて自然の香りもする環境にあります。また、自治会にも加入し、その行事にも積極的に参加しています。大人ばかりでなく、子どもたちも当ホームに来るなど、地域住民との関係は良好です。

当ホームの運営者が看護師で、医療に対する対応がきめ細やかです。毎月利用者の家族に送付している「ご様子お知らせシート」には、日々の血圧、脈拍、体温などの情報を伝え、利用者の健康管理に気を配っています。また、重度化した場合や終末期のあり方について、契約時点で「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を取り交わしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題として 研修内容を職員間で共有化の徹底、薬の保管場所は利用者の手の届かないようにするとの指摘に対し、は外部研修において所定の報告書を作成し、回覧ではなく職員会議で報告し全職員が共有する仕組みが構築されています。については手の届かない台所の吊戸棚に薬を保管したり、居間のロ-ボードでは、鍵を取り付けることによって対応しています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議などで評価の意義や必要性を説明し、自己評価を職員で分担し、全職員が自己評価に携わっています。職員から「評価を通じ、人間関係の重要性や利用者との関わりなどの問題意識を持つことができた」という意見があります。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成19年度は、2回の運営推進会議が開かれています。主として運営に関することが話しあわれています。11月の会議では七夕での短冊作り、夏祭り、自治会の非難訓練などを多くの写真を用いて説明がなされています。また、この日の会議では、利用者のホーム外への徘徊対応及び拘束の話で、利用者が外に出て行ってしまおう方が何人かいるという報告があり、当ホームの対策として、玄関に鍵を掛けることは、拘束に繋がるので鍵は掛けたくないと明確に述べています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>契約時に「ご意見シート」を配布したり、玄関ホールに意見箱を設置したり、家族や利用者の意見・要望・不満等を聞くように努力しています。また、家族の訪問時にも、ホームに対する要望等を積極的に聞くように心掛けています。運営推進会議を有効に利用することを心がけ、そこで得られた家族等からの意見をホームの運営に活かすようにしています。さらにアンケートをとるなどして、今まで以上に運営に反映することを期待します。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>主として自治会を通じ地域との交流に努めています。自治会の行事(夏祭り、防災訓練等)に積極的に参加しています。子供たちが当ホームで飼っているウサギを見に来るなど、大人ばかりでなく子供を含めた世代間交流が行われています。また、2ヶ月に一回の割合で近隣のデイサービスを利用し、地域の人々と連携や交流を図っています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の人生の軌跡を敬い、大切にしていける援助をおこなうことで生命力を高め生活の質の向上をはかっていく」という理念の主旨により、利用者が、その人らしく生活することを支えるケアになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任の職員には、採用時1ヶ月以内に行われる研修を、現任の職員には、毎月の職員会議などで共有化を図っている。この事は職員ヒアリングでも確認できた。また、日々のサービスを行う上で、この理念の実践に向け、職員は利用者に向き合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じ、地域との交流に努めている。自治会の行事(夏祭り、避難訓練等)に積極的に参加し、また、子供たちが当ホームで飼っているウサギを見に来るなど大人ばかりでなく子供を含めた交流が行われている。職員の中には、近隣の住民で、自治会に参加している人も数人いて、自治会との緊密さを感じる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には会議などで評価(自己評価、外部評価)の意義や必要性を説明し、自己評価を職員で分担し、全職員が評価に携わっている。評価を通じ職員が、自分にとって何が必要なのかなどの問題意識を持ち、それらが具体的な改善に繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員、大家、市の職員、地域包括支援センターの職員、駐在所警察官、入居者家族などが参加し、活発な意見交換が行われている。多くの写真を使い、利用者の日常生活を中心に、当ホームの運営状況などを報告している。利用者の徘徊対応、及び拘束についてホームでは、玄関に鍵を掛けることは拘束に繋がると明確に答えている。このことは地域住民と信頼関係が構築されていることを如実にあらわしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて市の担当者と連絡を密に取り合い、当ホームの運営実態を知ってもらい、必要に応じて担当者と話し合う機会をもっている。また、他の会合(県央GH協議会など)でも接触を持ち、市との連携を図っている。「小鮎地区地域福祉だより」にも積極的に投稿し、地区レベルでの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに「ご様子お知らせシート」を作成し、血圧・脈圧・体温などの健康状態を中心に、日々の出来事などを詳細に毎月報告している。このお知らせシートは当ホームの健康に対する考え方を反映させたものになっている。金銭管理については、金銭取扱いマニュアルに従い、個々に出納帳を用意するなど適正に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関近くに目安箱を用意したり、面会時に家族の意見等を聞くようにしている。家族からの意見等は職員会議などを通じ全職員が共有している。しかしながら運営に関する家族等の意見が活発と言える状況ではない。		定期的なアンケートなどで、利用者や家族の意向、満足度などの調査を行い、家族の意見等を確認し、それらを参考にして、当ホームの運営に家族等の意見を反映する仕組みを構築することを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームとしては、異動は出来るだけは避けるようにしているが、現実には避けることはできていない。しかし、日常生活の中で、外出、買い物(当ホームでは全ての食材を近隣の商店やスーパーで購入)などで利用者と多くの職員が接する機会を意識的に持たせ、利用者が多くの職員を知る機会を意識的につくり、代わる場合のダメージを少なくするように努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、新人の場合は採用時研修として、採用時1ヶ月以内にオリエンテーションで「認知症介護の仕事で肝に銘じて欲しい基本の心得」というテキストを使用して行っている。また、職員の場合は、運営者が管理者・主任と相談し、職員の経験に応じた外部研修を行って、緊急性のあるものは、その都度社内勉強会などで対応している。		介護サービスの質の確保は、人材の確保に通じます。中堅の職員に対する研修計画が、明確に提示されていますので、職員のモチベーションを維持する上でも職員の意向を尊重した研修計画の立案を望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年5月に厚木介護事業連絡協議会が発足したが、管理者は立ち上げメンバーとして参加し、現在も役員として活躍している。また、県央GH協議会にも加入し、同業者との交流する機会を持っている。同業者とは職員同士の相互交流(形式的なものではなく実践的な交流)を行っている。また、2ヶ月に一度の会合には職員も同席するなどの活動を通じサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員や他の利用者にホームの雰囲気などを知ってもらうため、入居前には本人も含め見学して貰っている。また、入居前の情報収集時には、運営者、管理者、主任など複数の職員が利用予定者の居宅を訪問し、利用者の生活歴や家族の要望や思いなどを確認している。それらはフェイスシートとしてまとめられ、職員に提供されている。また、入居直後には面会の機会を多く設けたり、外泊等を行えるように家族にも協力してもらい徐々に馴染みながら入居して貰っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、一緒にお茶を飲んだり、買物をしたり、散歩したり、あるいは食事の盛りつけ、洗濯物の片付けなどを一緒に行い喜怒哀楽を共にし、お互いの信頼関係を構築している。また、職員ヒアリングでは、自己開示の必要性、聞くだけでなくこちらからも意見を伝える事の重要性などを聞くことができた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホーム独自の「私ができることわからない事シート」やセンター方式による詳細なアセスメントを活用したり、日々の生活の中で聴いたお話し、ご家族からの情報収集や非言語のメッセージにも注意を払って、一人ひとりの意向の把握を行い、職員間で共有化されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>管理者や職員は、家族の訪問時や電話等を通じて、家族の要望等を聞き取るように努めている。また、月に1度のフロア会議で、毎回2~3件の事例検討を行い、意見交換を行っている。その他、申し送り時やその都度、業務日誌に記入して、情報の共有化が図られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、事務所の他、フロアにも保管されサービス提供時に確認反映されている。介護計画は3ヶ月毎フロア会議で話し合い、見直される他、状況が大きく変わった時等、随時見直されている。その他、日々の介護で、気づいた事等は、ケアマネに直接伝えたり、業務記録に記載して共有化され、評価も毎月1度行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の認知症高齢者の介護者の相談にのり、包括支援センターを紹介したり、包括支援センターからの、近隣に住んでいる、認知症高齢者に対しての目配り等を頼まれたりすることもある。また、家族からの申し出により、利用者が家族と一緒に旅行される折等は、体調や、情報の共有を行い外泊の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時や往診時には、受診支援を行い、かかりつけ医との連携や、情報交換を行っている。また家族への連絡も随時行っている。協力医療機関以外でも、医師に文書で睡眠状況を伝えたり、家族が遠方の場合等は受診支援を行って連携や情報の共有化が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を取り交わしており、家族と話し合いと確認をしている。それぞれの状況に応じた対応方法が、具体的に記載されている。協力医療機関とも契約が取り交わされており、状況変化に応じて利用者家族との話し合いの機会を持ち、希望に沿う形で支援して行く姿勢がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時に、「個人情報保持に関する契約」を非常勤職員も含めて結んでいる。管理者は日々の実践や会議を通じ、職員の意識向上に努めている。個人情報ファイルは、鍵付き書庫に保管している。思いやりを持って利用者とは日々接し、入浴は個別に、排泄の介助もさりげなく行い、利用者のプライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、ペースを大切に支援が行われている。1階の入居者が2階の入居者と一緒に過ごしたり、外に出たくなった利用者には、職員と一緒に散歩をしたり、また、みつからない様についていたりしている。また、前夜眠れなかった方には、居室で休んで貰うなど、個別性を重視した支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、下膳の手伝いも常時行われている。外食の機会も作り、その他、誕生会等の行事食もなるべく作っている。職員も利用者と同じテーブルで同じ食事をとり、会話をしながらさりげなくサポートしている。その他、検食チェックや、外部の栄養士により、年2回メニューチェックも行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助は一人ひとり行われている。異性介助の場合でも、部屋の外から声掛けを行うなど配慮しており、希望があれば、入浴日を変えて同性介助も行っている。入浴拒否がある場合も上手に誘導が行われており、入浴剤や乳液、低刺激のクリーム等で保湿を行い、肌の乾燥対策も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴、経歴、趣味、感心ごと等をふまえて、昔話をしたり、食事の支度や片付け、花の水遣り、雑巾縫い、行事の飾り付けの手伝いを一緒にしている。利用者の希望で、夜に電飾見学に行ったり、日帰り旅行や、地域の行事等への参加も支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回の食材等の買い出しの同行の他、利用者自身の買い物や、車でのドライブ外出も日常的に行われている。その他、地域のミニデイサービスへの参加、鎌倉への小旅行、外食も行って、気分転換や、ストレスの発散、心身の活性化を図っている。外出活動記録により職員間で共有されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。2階の階段部分は、安全面から、夜勤時間帯等必要に応じて鍵をかける事もある。利用者の外出には、目配りがされており、他の事に気を紛らわせたり、わからないように職員が同行するなど配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回職員、利用者の参加のもと実施されている。緊急連絡網、消防計画書、訓練記録も整備されている。さらに、地域の防災訓練にも参加して、協力体制が得られるように働きかけが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人日常記録に、大まかな食事の摂取量が記録されている。水分については、摂取目標値が、各々決められており、職員間で共有されている。咀嚼や嚥下、消化の状態にあわせて食事形態も、刻み、潰し等配慮されている。さらに、外部の栄養士により年2回メニューチェックが行われ、必要に応じて外部委託の「栄養ケア計画書」も作成されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには、季節の飾り物、絵画が飾られ、リビングの壁面には、文字盤の大きな時計やカレンダー、日めくりが掛けられている。また、「うさぎのどんちゃん」のゲージも置かれ、お花やお人形が飾られている。リビングをはじめ共有部分は、広くゆったりとしたバリアフリーで、要所には手すりが設置され、ソファや椅子も随所に置かれており、日当たりも良く、照明も適度でいやなおいもない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした広さがあり、使い慣れたタンスやベッド、テーブル、椅子、カーペット、家族の写真、テレビ、趣味の品、思い出の品や馴染みの品々が置かれ、利用者の居心地のよさに配慮している。また、家族が居室に泊まれ、朝食を一緒に食べられる事もある。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	どんぐり庵
(ユニット名)	みみお
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 厚木市 飯山 2237-9
記入者名 (管理者)	住谷 博実
記入日	平成 19年 11月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開設時から独自の理念として入居者様が地域の中で、最後までその人らしく生活できるお手伝いができるような理念作りをしている。ホーム玄関に理念を掲示している。	掲示している理念の言葉が難しく書いてあるのでわかりやすいものにしたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	入職時に話し、毎月の職員会議の中で、事あるごとに話している。必要とあれば会議を中断し、基本に立ち戻るよう考えてもらっている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	入居時にしっかり説明し、その他訪問時にも説明するように心がけ熱意をもってGH運営にあたっていることを、理解してもらえるように努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	管理者・職員は近隣の方との挨拶を心がけ、自治会長様・民生員様・大屋さんに紹介していただいた方を通して気軽に立ち寄っていただけるようお話ししている。職員が自治会にいたるため情報をもらっている。飼っているウサギを見に子供たちが遊びに来る。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入し自治会の夏祭りや、どんど焼き・防災訓練等に参加しております。お祭りの時は子ども会神輿がホーム玄関まで来てくれ、入居者との交流を持てるよう自治会の方が配慮して下さったりミニデイにも参加し交流に努めている。本当に自治会の方には良くしてもらっております。	
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	入居者が地域のミニデイに参加したときに他の高齢者の方たちと歌や体操を行えるように助言したり、広報にホームを相談できる場として活用していただけるよう載せている。	

3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価表を職員で分担して評価し、全員が評価表に目を通せるようにしている。行なう前や、何かの折には評価の必要性を説明し内容についてどのようなものかを説明している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は地域の方・包括支援センター・民生員・ご家族・大屋さん・自治会長・駐在さんと回数を重ねるごとに参加者が増え活発に意見を交換してくださっております。取り組みは写真等を添えて知ってもらえるよう工夫している。その中で貴重なご意見を賜り活用させていただき、当ホームのPRにも役立っております。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>主に運営推進会議開催の案内や議事録提出等で連絡を取り合っているが、他地域の会合等でサービスの質について担当者と話をする機会を持つようにしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会はある、会合等で話には出てくるが、必要性について関係者と話合うことや活用は行なっていない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>防止のため、まずスピーチロックから職員に酸っぱく言っております。ここをないがしろにする事からエスカレートしていく事も考え、日ごろの職員の様子を知るようにホーム内を歩くようにしております。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様からは都度職員が吸い上げ報告、すぐに対応できるものはすぐ実行している。他は職員会議等で相談し反映させております。</p>		

14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご様子お知らせシートを作り、日々の出来事・血圧・体温・体重を記入し1ヶ月に1度送付しております。金銭管理は、金銭取り扱いマニュアルで管理し、個々に出納帳を用意、毎月コピーと、その月の領収書を送付。こちらにも領収書のコピーを控えております。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人としての窓口がある。面会の時にも話しやすい雰囲気を作っている。また、ホーム入口に目安箱を設置して意見を吸い上げる様にしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その都度吸い上げ、簡単に解決に至る物はすぐ実行する体制。その他は上司と相談したり、職員会議にて相談し決定する。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本当に努めてます。土・日・祭日は人員を厚く当てることを心がけております。土・日・祭日に働けない人が多いのも事実ですが。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できる限り異動や離職は避けられるよう努力している。買い物や外出は各ユニット職員と各ユニット利用者様が一緒に行ったりするため利用者様も見たことある顔の認識がある。そのため異動の際はダメージは最小限になっていると思われる。離職者は理由により随時対応しております。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者・主任と相談し外部研修への参加をしている。法人内研修も行ない、勉強会は職員会議時におこなったり、緊急性のある物は、招集をかけて勉強会を行なっている。また、新入職員はオリエンテーションを実施している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>H18年5月に、厚木介護事業連絡協議会が発足され、管理者は立ち上げのメンバーとして参加、現在も役員として厚木市の介護サービス事業者との会合・研修・勉強会・市や特養・包括支援センターとの話し合いの場を設けていて必要な時に連絡を取れる体制にある。また、県央GH協議会に加入しており相互研修、2ヶ月に1度の会合に参加、これらに職員も同席させている。県認知症高齢者GH協会にも加入</p>		

21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日ごろから職員とよく話をするように心がけている、また、時間や機会のあるときに一緒に食事に出かけるようにしている。今年度はカウンセラーを招きメンタルヘルス研修及び職員のストレス診断を実施。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>優秀な職員への昇給やパートから職員への昇格は都度おこなっている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に必ずご本人の自宅・入院先に出向いてご本人とお会いして本人から話を聴き不安に思っていること等を理解するよう努めている。それらは情報シートにし他職員も知ることができるように行っている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談はもちろん、他の問い合わせにも時間を十分とり対応するようにしております。ご家族は困っているから相談したいことを心得ております。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>上記と同じく、対応し、ご本人と家族が「その時」まず必要としているサービスは何であるかという観点や利用料等を考慮し他サービスもご紹介さしあげております。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人も含め見学していただくように助言している。入居直後の方には徐々に慣れてもらえるよう面会の機会を多く設けたり外泊等を行えるようにご家族にも協力いただいている。入居前の情報シートにご家族の思い意見等を考慮し一人一人に対して対応しております。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で時には職員が教えてもらう立場に立ったり、悩み事があるときは一緒に考える姿勢を見せるなどおこなっている。</p>		

28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	健康面に変化があったときや、生活の中で新たな発見があったときはご家族にお伝えし共有できるように努めている。食事会などのイベントもご家族に協力が得られるようにおこなっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いろいろな行事にはご家族に声をかけ、参加して頂きスキンシップをとって頂けるよう努めている。面会に来て下さったときは、より良い条件でお話して頂けるよう努めている。日々の生活ぶりのお知らせや写真の郵送している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からのお手紙や贈り物に対し、返事やお礼状を書いていただくお手伝いをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	普段不穏なことが多い方でも、機嫌の良さそうな時はなるべく皆さんと過ごして頂き顔馴染みとなって頂く。洗濯や調理等を協働してもらいお互いに補佐しあえるような関係づくりをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的とはいえませんが、関わりを必要とする入居者や家族がいるならば大切にしていると思う。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に意向を把握するように努めるとともに入居後も何を望んでいるか本人や家族から情報収集できるようにしている。本人の過ごしたい場所で過ごせるように支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に自宅を訪問し今までの生活歴を聞き取り基本的な情報収集をしている。入居後も本人とのコミュニケーションから今までの生活を知るように配慮している。		

35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の言動を注意深く見聞きし、こういう行動のときはトイレに行きたい、こういう時はお腹が空いているなどを把握している。持っている力に働きかけるよう、声かけし協力して頂けるような方向に持っていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは情報収集し介護計画立案に反映できるよう取り組んでいる。また職員同士で話し合い課題を明確にし方向性を決めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時に職員間で話し合いをおこない新たに計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を個人記録として日々書き残している。特記事項、必要事項、申し送り事項などは連絡ノートとし記入、出勤してきた職員はまずそれに目を通しサインをしている。食事量、水分量、排泄状況、バイタル測定、受診記録等も書き残し出勤者は目を通すことを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連泊の旅行、週末の外泊、外出などご本人の体調の許す限りご要望に応じている。お食事などもご希望に応じるように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のミニデイや祭り、消防訓練等に参加してもらえるように支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力医療関係機関以外での入院・受診等の支援は行っている。また介護用品の購入等に関しては相談を受けたり支援を行っている。		

42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>事例はないが助言を頂いたり、協力できる体制にある。当ホーム玄関にパンフレットを常備している。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には特定の協力医療機関を受診して頂いているが、入居者本人の症状や希望に応じて、他医療機関へ受診して頂けるような体制を整えている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて相談機会を設け頭部CTをとってもらったり受診もおこなっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>発熱や転倒等、入居者の健康に異変があった場合は、すぐにNsに連絡し協力医療機関を受診できるような体制をとっている。また、入居者の健康状態に関して日常的にNsに報告、相談をし、その都度アドバイスを受けている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>今まで入院していた入居者様に対して、病院を訪問する、医師と面談する等、連絡を取り合っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に家族には方針の説明を行なっている。また、家族とは重度化した時の対応について話をして、その結果を職員が共有しできる限り実践している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事例に応じて「できること」「できないこと」を検討し「できること」は可能な限りおこない、なるべくどنگり庵で暮らせるよう支援している。今後については、事例を元に検討を行っている。</p>		

49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の特徴や生活リズムを把握できるように関係者間で十分に検討を行なっている。また、使い慣れた家具の設置するなど工夫をしてダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>排泄時、トイレや居室ドアを閉める等の基本的なプライバシーの確保は出来ていると思われる。また言葉遣いも馴れ合いにならないようにその方に合わせられるように配慮している。個人情報の取り扱いには気をつけている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が理解・納得できるような言葉かけを行うよう心がけている。その中で本人が選択や決定できるように配慮している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食が進まない入居者に対しては献立以外にゼリーやプリン等食べやすいものを提供したり、夜間不眠の入居者は、日中短時間居室で横になって頂く等、入居者が、より一日を快適に過ごせるよう心がけている。また外出を希望する入居者には極力期待に添うようにしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝は整容・更衣・洗顔(又は顔拭き)、ほぼ毎日実施できている。髪が伸びてきたら美容院にお連れしている。店は特に希望がない限り行きつけのお店を利用している。衣類も本人の好みのもを着られるように配慮している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>歯が悪い入居者にはやわらかいものを提供したり、入居者の嗜好は概ね尊重できていると思われる。配膳を一緒に行ったり、片付け等もできる限り入居者の方にしていただくように準備している。</p>		

55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコールは薬との兼ね合いがあるため普段は提供していないが、行事等特別な場合はNsやDrと相談するようにしている。他飲み物については色々準備し本人の好みに合わせられるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用しながら、個々の排泄パターンに応じて声かけと案内をおこなっている。なるべくトイレでの排泄がおこなえるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、職員側で決めてしまっているが、希望があればその都度入浴して頂けるような体制をとっている。時間は特に希望がない場合は職員が決めて声かけを行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠確保の為、日中の活動を充実させる。必要性は職員全員が理解しているを思う。、夜間起きてきた入居者に対しては、安心できるような声かけを行い、睡眠を妨げていると思われる原因(失禁による不快感、空腹感等)をその都度取り除くよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力を活かした気晴らしはできるよう努力している。また、それぞれの得意なことが生かせるように役割作りをおこなっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には、個人のサイフを持って、買い物ができるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へのお散歩や買い物、戸外での外食をおこなっている。		

62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>職員とドライブや買い物へ行くようにしている。ご家族と出かけられる機会があれば外出してもらっている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様全てが電話や手紙を利用するのは困難だが、出来る方には行なって頂いている。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも気軽に訪問できるようになっている。訪問者と入居者が居心地良く過ごしてもらえるようフロアだけでなく居室で過ごしてもらうようその場に応じて声かけをしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束に関するマニュアルを読み具体的な事柄については説明をしている。それによって何が拘束に値するかを学びおこなわないように努めている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>外に出たがる入居者はいるが鍵はかけていない。職員は入居者の所在を把握するように努めている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>作業をしながらも利用者の様子や安全に配慮している。居室で過ごしている時も定期的に訪室するなど安全には気をつけている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>貴重品は職員が保管・管理している。はさみ等もその方の状況に応じて本人管理にしたり、職員で預かるなどしている。</p>		

69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>薬に関しては勉強会をおこなっている。ヒヤリハットレポートを出すようにし日常の中に潜んでいる危険を予知できるように働きかけると同時に個別の対応は対策の検討としてミーティングとして検討している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的におこなっていないが、緊急対応のマニュアルを作成し、必要に応じて利用できるようにしている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の防災訓練に参加することにより、少しでも地域の人々と関わる機会を作り日ごろから協力体制が得られるように心がけている。避難訓練も実施している。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>利用者に関するリスクについて、家族等との話し合いは行なっている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルのチェックと顔色や歩行状態等気付いた際は記録及びスタッフ同士でもすぐに伝えるようにしている。そしてしばらくは動向を見守る。体重を月に2回測定し変化を観察している。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>朝・昼・夕を処方されている入居者さんに対しては声かけをして服薬している。(薬が口の中に残っていないかどうか、数が多い時には完全に飲み込めたか確認する)</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分の摂取や食材の選択に気を配っている。乳製品等も取るように心がけている。</p>		

76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけと介助をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>バランスの摂れた食事を心がけたり出来る限り飲み物を摂って頂く様にしている。食事摂取量や水分摂取量は記録に残しどのくらい取れているか確認している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症マニュアルを準備しており、季節によって生じやすい感染症についてはその都度案内している。また外出から帰宅された時、手洗いうがいや、食事前やトイレ後の手洗いはして頂くよう徹底している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食品については賞味期限の確認をおこなっている。調理用具は定期的に消毒するよう決めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関ポーチに椅子を置いたり花壇を作ったりし誰でも入りやすい雰囲気を作っている。近所のお子さんも気軽に尋ねてくる。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>9名それぞれの空間の使い方が違うことを理解しながら、入居者同士のコミュニケーションをとれるようにしている。食事作りをしているところを間近で感じたり、季節感がある飾り物をするなど工夫している。</p>		

82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、気の合う人同士で会話を出来るようにしたり、一人でのんびりされている。入居者の状況により、希望があれば温泉気分と一緒に入浴することもある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた家具を配置し今までの生活空間とあまり差がないように配慮している。テレビや音楽が好きな方は家族と話し合っってテレビ等を準備して頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンの温度は室温計で確認している。換気は臭いの有無によってしたり、掃除の時は必ずおこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ところどころ手すりを配置したり、家具の配置を入居者がスムーズに移動できるよう考えている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	難聴の入居者さんには、他入居者さんの名前やこれからおこなうことを紙に書いて伝えたり、一人一人が持っている力を活かせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関ポーチに椅子を置き、外の景観を見ることができたり、入居者さん同士のコミュニケーションのとれる場所として利用する。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常の中で困ったことやトラブルが起きたときはなぜそうなったのかを丁寧に考えるようにしている。「理由」を深めることで一人ひとりが持つ思いを理解することに近づくと考えている。そういったことをミーティングで話し合える環境を作っており、それが入居者の生活の質の向上につながると思う。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	どんぐり庵
(ユニット名)	みみこ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 厚木市 飯山 2237-9
記入者名 (管理者)	岡本 祥幸
記入日	平成 19年 10月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時から独自の理念として入居者様が地域の中で、最後までその人らしく生活できるお手伝いができるような理念作りをしている。ホーム玄関に理念を掲示している。</p>	<p>掲示している理念の言葉が難しく書いてあるのでわかりやすいものにしたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>入職時に話し、毎月の職員会議の中で、事あるごとに話している。必要とあれば会議を中断し、基本に立ち戻るよう考えてもらっている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時にしっかり説明し、その他訪問時にも説明するように心がけ熱意をもってGH運営にあたっていることを、理解してもらえよう努力している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>管理者・職員は近隣の方との挨拶を心がけ、自治会長様・民生員様・大屋さんに紹介していただいた方を通して気軽に立ち寄りいただけるようお話ししている。職員が自治会にいるため情報ももらっている。飼っているウサギを見に子供たちが遊びに来る。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し自治会の夏祭りや、どんど焼き・防災訓練等に参加しております。お祭りの時は子ども会神輿がホーム玄関まで来てくれ、入居者との交流を持てるよう自治会の方が配慮して下ったりミニデイにも参加し交流に努めている。本当に自治会の方には良くしてもらっております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居者が地域のミニデイに参加したときに他の高齢者の方たちと歌や体操を行えるように助言したり、広報にホームを相談できる場として活用していただけるよう載せている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価表を職員で分担して評価し、全員が評価表に目を通せるようにしている。行なう前や、何かの折には評価の必要性を説明し内容についてどのようなものかを説明している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は地域の方・包括支援センター・民生員・ご家族・大屋さん・自治会長・駐在さんと回数を重ねるごとに参加者が増え活発に意見を交換してくださっております。取り組みは写真等を添えて知ってもらえるよう工夫している。その中で貴重なご意見を賜り活用させていただき、当ホームのPRにも役立っております。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>主に運営推進会議開催の案内や議事録提出等で連絡を取り合っているが、他地域の会合等でサービスの質について担当者と話をする機会を持つようにしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会はある、会合等で話には出てくるが、必要性について関係者と話合うことや活用は行なえていない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>防止のため、まずスピーチロックから職員に酸っぱく言っております。ここをないがしろにする事からエスカレートしていく事もあると考え、日ごろの職員の様子を知るようにホーム内を歩くようにしております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様からは都度職員が吸い上げ報告、すぐに対応できるものはすぐ実行している。他は職員会議等で相談し反映させております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご様子お知らせシートを作り、日々の出来事・血圧・体温・体重を記入し1ヶ月に1度送付しております。金銭管理は、金銭取り扱いマニュアルで管理し、個々に出納帳を用意、毎月コピーと、その月の領収書を送付。こちらにも領収書のコピーを控えております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人としての窓口がある。面会の時にも話しやすい雰囲気を作っている。また、ホーム入口に目安箱を設置して意見を吸い上げる様にしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>その都度吸い上げ、簡単に解決に至る物はすぐ実行する体制。その他は上司と相談したり、職員会議にて相談し判断する。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本当に努めてます。土・日・祭日は人員を厚く当てることを心がけております。土・日・祭日に働けない人が多いのも事実ですが。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できる限り異動や離職は避けられるよう努力している。買い物や外出は各ユニット職員と各ユニット利用者様が一緒に行ったりするため利用者様も見たことある顔の認識がある。そのため異動の際はダメージは最小限になっていると思われる。離職者は理由により随時対応しております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者・主任と相談し外部研修への参加をしている。法人内研修も行ない、勉強会は職員会議時におこなったり、緊急性のある物は、招集をかけて勉強会を行なっている。また、新入職員はオリエンテーションを実施している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H18年5月に、厚木介護事業連絡協議会が発足され、管理者は立ち上げのメンバーとして参加、現在も役員として厚木市の介護サービス事業者との会合・研修・勉強会・市や特養・包括支援センターとの話し合いの場を設けていて必要な時に連絡を取れる体制にある。また、県央GH協議会に加入しており相互研修、2ヶ月に1度の会合に参加、これらに職員も同席させている。県認知症高齢者GH協会にも加入している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日ごろから職員とよく話をするように心がけている、また、時間や機会のあるときに一緒に食事に出かけるようにしている。今年度はカウンセラーを招きメンタルヘルス研修及び職員のストレス診断を実施。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	優秀な職員への昇給やパートから職員への昇格は都度おこなっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ずご本人の自宅・入院先に出向いてご本人とお会いして本人から話を聴き不安に思っていること等を理解できるよう努めている。それらは情報シートにし他職員も知ることができるように行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談はもちろん、他の問い合わせにも時間を十分とり対応するようにしております。ご家族は困っているから相談したいことを心得ております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じく、対応し、ご本人と家族が「その時」まず必要としているサービスは何であるかという観点や利用料等を考慮し他サービスもご紹介さしあげております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人も含め見学していただくように助言している。入居直後の方には徐々に慣れてもらえるよう面会の機会を多く設けたり外泊等を行えるようご家族にも協力いただいている。入居前の情報シートにご家族の思い意見等を考慮し一人一人に対して対応しております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を一緒に過ごしながらそれぞれから得意なことを教えてもらうなど、日々支え合う関係を築けていると思う。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事を一緒に行ったり、日ごろの様子を伝えるなど、家族と共に本人を支えていく関係を部分的ではあるが築けていると思う。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は概ね理解し、今までの関係を保てるように支援していると思う。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた場所等の話しをしたりするが、なじみの人等の関係は途切れてしまっているように思う。		場所等の話だけではなく、なじみの人との話を聞いたり会ってもらおう等考えて努力、支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備を分担したり、誕生日などの行事では一人ひとりにお祝いの言葉を述べてもらうなど、孤立せず、関係性を深められるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的とはいえませんが、関わりを必要とする入居者や家族がいるならば大切にしていると思う。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接や家族からの話の中で暮らし方の希望・意向は微力ながら把握し、本人本位に検討できるように言葉以外のメッセージにも注意を払っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活環境等、概ねだが把握できているように思う。把握したことをホームでの生活に活かせるように努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々過ごし方に変化があり、心身状態も異なるので、その都度現状を把握して対応するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者等を含め話し合いの場を持ち、話し合い介護計画を作成していると思う。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて介護計画の見直しをし、期限を迎えるまでに新たに対応困難な変化が生じた際は、すぐに対応について話し合い、新たな介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等、個人記録に記入し情報交換をすることで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、買い物、散髪など、本人や家族の希望に即した支援ができるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のミニデイや祭り、消防訓練等に参加してもらえるように支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力医療関係機関以外での入院・受診等の支援は行っている。また介護用品の購入等に関しては相談を受けたり支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事例はないが助言を頂いたり、協力できる体制にある。当ホーム玄関にパンフレットを常備している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と必要に応じて受診の支援をしている。本人の状況によっては家族による受診の支援(Drの様子を連絡するなど)を個別にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて相談機会を設け頭部CTをとってもらったり受診もおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要に応じ、連絡を取り処置、対応、受診の有無の指示を受けている。また定期的な訪問によって助言を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今まで入院していた入居者様に対して、病院を訪問する、医師と面談する等、連絡を取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族には方針の説明を行なっている。また、家族とは重度化した時の対応について話をして、その結果を職員が共有しできる限り実践している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事例に応じて「できること」「できないこと」を検討し「できること」は可能な限りおこない、なるべくどんぐり庵で暮らせるよう支援している。今後については、事例を元に検討を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の特徴や生活リズムを把握できるように関係者間で十分に検討を行なっている。また、使い慣れた家具の設置するなど工夫をしてダメージ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけのタイミングや声の大きさに配慮し、個人情報は目の届かない場所に保管をしてプライバシーの確保に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食べ物や外出など、本人の希望に合わせて行なっている。また、職員主導にならないように、じっくり話をしよう心がけている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは決めているが、入浴や外出など入居者様の状況に応じて柔軟な対応をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪どめを利用したり、化粧をするなど、身だしなみ、おしゃれについては心掛けている。理容・美容は個々により望む店がある場合はその店に行ってもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜切り、配膳、食器の片付けを入居者と一緒に行なっている。また食材に合わせて、共に献立を考え調理する時もある。火を使う際は職員が見守り行なっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の体調により、好みに応じられないこともあるが、嗜好に合わせて支援をするようにしている。また、家族に本人の嗜好を伺い、把握するようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を確認しながら、状況を把握し、定期的にトイレへ案内をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	保清を目的に定期的な入浴を行なうため、あらかじめ予定は組んでいるが、拒否が強い場合は実施しないなど本人に確認した上で実施している。また入浴が心地よいものとなるよう声かけのタイミング等を考慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠・休息できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活において、個人の得意とする家事などの役割を行ってもらっている。買い物・散歩・手芸・花壇の手入れ・宛名書きなどをしてもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には、個人のサイフを持って、買い物が出るよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への買い物や散歩、外食など行い、戸外へ出かけられるようにしている。ホームの買い物は職員だけでいくことを禁止している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	イベントごとなどを利用して、普段は行けないところに出かけられる機会をつくり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様全てが電話や手紙を利用するのは困難だが、出来る方には行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	物理的、薬剤、言葉による拘束について理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やエレベーターはいつでも利用できるように施錠を行っていないが、玄関ドアに関しては出るとすぐに階段があり危険を伴うため、必要に応じて施錠を行う時もある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室でのんびりされている時や、何かに集中している時は一方的に介入するのではなく、様子を見る等配慮している。夜間は定期的に見回りを行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カッターやはさみなど、管理できる入居者には居室で利用できるように保管してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に周囲に目を配り、転倒の危険のある入居者が活動する時は寄り添う、誤薬のないよう飲み込むまで確認するなど、個々に応じて対応している。事故が起こった際はすぐに対応について検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的におこなっていないが、緊急対応のマニュアルを作成し、必要に応じて利用できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルの作成、避難訓練を実施している。また、地域の消防訓練にも参加し、協力体制を整えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に関するリスクについて、家族等との話し合いは行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間で、体調変化、異変の情報を共有し、良い対応ができるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時拒否があった時は、時間をおいて服薬支援等している。個人の薬の目的、副作用については処方箋で確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	常時水分摂取を働きかけている。繊維の多い食物を摂るようにしている。個人の力に応じ運動を働きかける。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを本人の力に応じて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼状態、嚥下状態、消化力等に応じ小さくしたり刻んだり、潰したり支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを整備している。さらにインフルエンザ・ノロウイルスが多い時期は対応の指示受け実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板の消毒。食材を適宜冷蔵・冷凍保管。食材の賞味期限を守る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	階段・スロープ・手すりが設置されている。玄関前にイスが設置されている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時ではないが、花が飾られている。また、七夕やクリスマスなどには、季節感のあるものを飾るようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに長椅子、エレベーター前には椅子を設置してそれぞれが利用できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れたものや好みの物を使って整え、今まで生活していた場所と同じような雰囲気になるように工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除や食後などは特に換気に努めている。温度は扇風機や冷暖房等を使用しこまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、段差の解消がされている。また、歩行など活動スペースを確保するために必要以上に物を置かないように注意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の認識が出来ない方に、文字や矢印で知らせている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇で草花の栽培を楽しむ。菜園で野菜を栽培し、入居者の力に応じ草とり等行なっている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活の中で、一人ひとりの「できること」が継続できるように取り組んでいる。食事の支度や掃除、洗濯物の管理などできる限り入居者におこなってもらっている。また、誕生日や特別な日は普段出かけられないところやその方が興味を持ちそうな場所へ外出できるように努力している。皆さんが「ここで生活していて良かった」と思える環境作りを行なっています。